2022年度活動概要　　オーラル　コミュニケーション研究会

毎年12月に本研究会主催で開催する恒例行事のOCF（ドラマや朗読、スピーチなどオーラル・コミュニケーション活動の発表・相互評価の場）は、今年度は対面を主としつつもオンライン(ZOOM)参加も可能として実施しました。対面発表を ZOOM でオンライン参加校に同時配信するハイブリッド方式で12月10日（土）に文教大学あだち校舎で次の10大学から総勢100名ほどの参加を得て開催しました。参加大学は愛知淑徳大学、公立鳥取環境大学（これら2校はオンライン参加）、甲南大学、名古屋外国語大学、青山学院大学、日本大学、東京工芸大学、同志社女子大学、仙台青葉短期大学、文教大学で、学生たちの創意工夫に溢れた作品が発表され、努力や成果を共有しました。従来通り、OCF では相互評価を重視し、それぞれの発表の直後、教員による口頭でのコメントに加え、聴衆はコメントをGoogle Formに記入し（QRコードを読み込む形で）、事後に共有しました。しかしスマホでのコメント入力は紙媒体より短い傾向があり、今後の検討課題となりました。OCF終了後に “After Talk”セッションを学生の司会進行でハイブリッド状態で日本語で行い、発表の裏話などを語り合い、和気あいあいとした雰囲気で締めくくりました。

OCFの後はZOOMで振返りを行い、それも踏まえて発表内容や指導の経過等を記した報告書をまとめ、年度末に会員で共有します。

コロナで 2019 年以来開催できなかった研究会メンバーによる宿泊を伴う研修会を今年度は年明け2月27日～28日に淡路夢舞台国際会議場で開催予定で、10名の参加者による次のような研究発表やワークショップを予定しています。

- 英会話トレーニング方法（研究発表）
- Warming up group work （ワークショップ）
- 日本人大学生の性格・情意要因が心拍数およびプロソディに与える影響　（研究発表）
- “The Little Prince”より１，２のdrama tasks（ワークショップ）
- オトナのReaders Theatre（ワークショップ）
- 配信型ワークショップの試み―ダイバーシテイと異文化の体感的理解に向けて
- スピーチの評価について（ワークショップ）

上記以外にもイベントや研究会などの前後には zoom 打ち合わせなどを行い、とてもアットホームな研究会です。

このような活動に興味のある方はぜひ参加を検討いただければ幸いです。

お問合せ先：研究会代表　塩沢泰子（文教大学）yasuko@bunkyo.ac.jp